

光明寺だより

第91号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550

TEL 0897-53-4583



心に残る言葉



超高速

大阪 杉田智昭 (79)

新幹線が走り出した時

その速さに驚いた

やがてリニアカーが

時速五〇〇キロで

走るといふが

まだまだ速さでは

飛行機 ロケット

上には上がある

だが何といつても

最高の速さは

過ぎ去った時の流れ

あつという間にもう

最高齢駅に到着だ



産経新聞「朝の詩」より

彼岸会法座

3月23日(水)

おつとめ 午後1時30分

おはなし 午後2時

【講師】大阪教区・法栄寺前住職

小林顯英先生

一口法話



—安心しておまかせする—

先年ご往生された梯實圓かははしじゅえん和上さんの最後の「ご法話を紹介いたします。

……私みたいに八十も半ば過ぎるとな、何が起きるかわかりやしませんからな。今日あつて明日のことは分かれへんねんから、危ないもんや、ほんまの話。お互い自分の「後生の一大事」を、シカッと決めとかなあきませんで。ほんまに大丈夫ですか？

光明寺だより 91号 (2)

阿弥陀さまのお救いが一番ハッキリするのは「なんまんだぶ」という声です。この声が聞こえてくるはずだ。聞こえなんだから称えなはれ。称えたら聞こえてくるでしょう。なんぼ耳が遠うても自分のいうた声は聞こえるわ。

平成28年2月

阿弥陀さまがね、「必ずたすけるぞ、私にまかせなさいや」とおっしゃってくださいってるんです。このお言葉に対してそうやってなあと、気がついたら「ありがとうございます」と言うたらええ。それがお念仏なんです。気がつかなんたら黙とつたつてええ。「たすける」と言つてくださってんねんから黙とつたつたかて助けてくださる。

そうでしょ。信心ちゆうのはワシがしっかりすることとちやいませ。病気でもしてみなはれシツカリなんか出来ますか。そしたらシツカリせよというのは、仏さまが私におっしゃってるんと違うだろ。仏さまの方が「心配するな、私がシツカリしてるから俺にまかせとけ」とおっしゃってるんですよ。だから「ありがとうございます」と言いなはれ。

言えなんだからそれでもええわ、それでええ。まかせといたらええんだ。それが「まかせる」いうことや。

阿弥陀さまは「たすけてやるぞ」とおっしゃる。それが「なんまんだぶつ」という言葉ですよ。「俺が引き受けたから心配するな」というのが阿弥陀仏という言葉の意味なんです。ご開山（親鸞聖人）はそうおっしゃる。「なんまんだぶつ」はね、「たすけてください」と、すがりついてるんじゃないんですよ。安心しておまかせをする。これが浄土真宗の信心といわれるもんなんですわ。「なんまんだぶつ」という声が聞こえたら、「俺がお前を引き受けたぞ」と阿弥陀さまが一声一声、安心を与えてくださってるんなあといただくんです……

『あたりまえの不思議』星野親行著より

このご法話で和上さんは、浄土真宗の要である「信心」を、「阿弥陀さまに安心しておまかせすること」と、繰り返し繰り返し噛んで含めるように語っておられます。ではどうすれば阿弥陀さまにおまかせすることが出来るようになるのでしょうか？

それは、み教えを聞かせてもらう（聴聞）以外ありません。この私を必ず救うと誓われた阿弥陀さまのご本願を聞かせてもらうのです。

念仏の教えは、「かかる殊勝の道理あるが故に、深く信じ奉るべきものなり」と蓮如上人が仰っていますように、聞けば納得せずにはおれない深い道理に基づいた教えが説かれています。ですから、心の底から頷けるまで、ひたすら聞法に励むのです。

そうすれば必ず阿弥陀さまのご本願のハタラキ（ワシにまかせ、必ず救う）が、私の心に届くはずですよ。その願いが到り届いた時、阿弥陀さまにすべてをおまかせする心が生まれるのです。その心を「信心」というのです。

こうして信心が定まる（阿弥陀さまにおまかせする）時、ご本願のお力で、この私がお仏になるべき身に定まり（正定聚しょうじょうじゆに住すると言います）、この世のいのち終える時、直ちに浄土に生まれ、この上もない悟りを開かせていただくのです。

これは、長い長い迷いの世界を流転してきた私の「いのち」の終りを告げるものであり、同時に、浄土へ向かう新たな「いのち」の誕生を意味するものです。これによって、私の「いのち」の行く末がハッキリと定まらるのです。まさに「信心の定まる時、往生また定まるなり」（末燈鈔）です。

この「いのちの行く末が定まる」ということがまことに大事なことなのです。

私たちにあって、人生最大の問題は何かと言えば、私は死んだらどうなるのかということだと思えます。つまり肉体の死後の私の「いのち」の行く末です。これを「後生の一大事」といいます。

和上さんもご法話の冒頭で「お互い自分の『後生の一大事』を、シカッと決めとかなあきません。ほんまに大丈夫ですか？」と仰っていますように、この問題が解決されない限り、私たちは本当に安心してこの人生を生きることは出来ないのです。その問題の唯一の解決方法が「阿弥陀さまにおまかせする」ということなのです。

私の肉体は寿命が来ればやがて崩壊するでしょう。しかし私の「いのち」は光り輝く浄土の世界（アミダのいのちの世界）へ帰っていく「いのち」だと知らされる時、もう心配なくこの人生を生きられ、死んでいけるのです。

私たちがご法話を聞かせてもらうのは、この「後生の一大事」を解決するために聞かせてもらうのです。聞いておけば人生の参考になるというようなカルチャーセンターで話を聞くのとは根本的に違うのです。

和上さんは、次のように仰っています。

……自分のいのちでありながらそのいのちがどんな意味を持っているのか？そして私はやがて息が切れたらどうなるのか？いやあー、そのことを聞き、考える時間が全くありませんでしたなどと言うのは、私は許しません。お互いにそのことを聞き、考える時間は充分にあつたはずや、わしやそう思う。自分のいのちでありながら、そのいのちがやがてどうなっていくのかを、しっかりと聞き聞いておかないというのは、自分のいのちに対して無責任すぎます。失礼というもんや……

まことにその通りです。

そうしてその「いのち」の意味を、次のように仰っています。

……よろこびも悲しみも、人生のあらゆる出来事を阿弥陀さまのお心を味わうご縁といただき、息が切れた先に限りない「光」

と「いのち」のお浄土を思う。そして、浄土に生まれれば、今度は阿弥陀さまとともに、苦しみ悩むあらゆる「いのち」を支え救うハタラクをさせていただく。それが私の「いのち」の意味です……

今、私達は幸いに生まれ難い人間世界に生まれさせて頂き、聞き難い仏法を聞くご縁を頂いています。今生において、この人間存在の一番大きな問題（後生の一大事）を解決しなければ、再び迷いの世界を流転することになるでしょう。無常の世界に生きる私達です。一刻も早く、この「いのち」の問題を解決しておかねばならないと思えます。その解決方法はすでに用意されているのですから。



別離の年の出来事

2016年(平成28年)
年忌表

身近な人を亡くされた年には、どんな出来事があったでしょうか？改めて振り返ってみましょう。亡くなってから1年目の法事は1周忌、2年目は3回忌、6年目は7回忌、12年目は13回忌となっていくます。お法事は亡き人を偲びつつ、この私が仏縁に遭わせて頂くための大切な仏事です。

<p>1 周忌 平成 27 年 (2015)</p>	<p>「安全保障関連法案の採決」 5月大阪都構想、住民投票で否決。 8月第2次世界大戦から終戦70年を迎える。 9月千葉県常総市で鬼怒川の堤防決壊、甚大な被害発生。 11月パリ同時多発テロで130人死亡。</p>
<p>3 回忌 平成 26 年 (2014)</p>	<p>「エボラ出血熱」 2月ソチ五輪。羽生結弦男子初の金メダル。 4月消費税5%から8%へ。 8月エボラ出血熱発生。 9月全米テニスで錦織選手準V。 10月赤崎勇・天野浩・中村修二の3氏がノーベル物理学賞受賞。</p>
<p>7 回忌 平成 22 年 (2010)</p>	<p>「口蹄疫」 2月バンクーバーオリンピック開催。 5月宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」発生。 8月チリの鉱山で落盤事故発生、33人の生存確認。 11月北朝鮮軍が韓国の延坪島にロケット砲撃。</p>
<p>1 3 回忌 平成 16 年 (2004)</p>	<p>「イチロー年間最多安打262本記録」 2月陸上自衛隊イラクに派遣 8月アテネオリンピック日本史上最多37個のメダル獲得。 10月新潟中越地方に震度7の大地震発生。</p>
<p>1 7 回忌 平成 12 年 (2000)</p>	<p>「シドニー五輪開催」 4月小渕首相脳梗塞で倒れる 7月2千円紙幣発行 9月シドニーオリンピック開催。女子マラソンで高橋尚子金メダル。 10月ノーベル化学賞に白川秀樹氏。12月世田谷一家殺害事件発生。</p>
<p>2 5 回忌 平成 4 年 (1992)</p>	<p>「PKO 法案成立」 1月大相撲、貴花田が史上最年少で初優勝。 3月東海道新幹線「のぞみ」登場。 6月PKO 法案成立。 7月バルセロナオリンピック開催。女子平泳ぎで岩崎恭子金メダル獲得。 9月学校週五日制開始。</p>
<p>3 3 回忌 昭和 59 年 (1984)</p>	<p>「新札発行」 2月植村直己氏、マッキンリー登頂後に消息絶つ 3月グリコ森永事件発生。 7月ロス五輪開催。 11月15年ぶりに新札発行。1万円札福澤諭吉、5千円札新渡戸稲造、千円札夏目漱石。</p>
<p>5 0 回忌 昭和 42 年 (1967)</p>	<p>「第三次中東戦争勃発」 3月高見山が外国人初の関取。 6月イスラエル・アラブ連合間で戦争。 7月リカちゃん人形発売。 10月佐藤栄作首相ベトナム訪問阻止で羽田闘争。吉田茂国葬。</p>

「報恩講」つとまる！



昨年12月2日、行信教校講師・天岸浄圓先生をお招きして、「報恩講」が勤まりました。「報恩講」は親鸞聖人のご命日にあたってそのご遺徳を讃え、お念仏のみ教えをお聞きいただいた聖人のご恩に感謝をする仏事で、浄土真宗では最も大切な法要であります。講演に先立ち、法座皆勤者の表彰を行いました。今年の皆勤者は次の9名の方々です。越智敏子・野間幸子・松本朱美・真鍋磨千子・森賀英幸・森賀愛子・森賀美代子・安永省一・安永敏枝（敬称略）

【講演主旨】

「南無阿弥陀仏」はインドの古い言葉に漢字の音を当てはめたもので、漢字そのものに意味はありません。これを漢字に訳しますと、南無＝帰命 阿弥陀＝無量壽 仏＝如来となります。

つまり「南無阿弥陀仏」は「帰命無量壽如来」と訳することができます。

「帰命」とは仏さまの教えを依りどころにする、或いは判断基準にするということです。

「無量壽」とは慈悲を表します。「抜苦・与樂」の意で、苦悩を取り除き、幸せを与えることを喜びとする心を言います。特に仏さまはあらゆる人々にを分け隔てなくそのお心を実現することが出来ることから「大慈悲」といいます。またそのような生き方を目指していく者を仏教徒ということです。「如来」とは真如の世界から来たという意味で、覚者（目覚めた人）ということです。覚者（如来）に対して私たちは慈悲を実践しようとする、却って自らの無慈悲さに気づかされます。そこに深い反省を込めて自らを「凡夫」というのです。

帰命無量壽如来（南無阿弥陀仏）とは、凡夫であることを反省（慚愧）をし、大慈悲心と呼ばれる仏さまのお心を生きる依りどころにし、自らもそれを実践していこうと表明する言葉ということになると思います。

「新春法座」開かれる！



本年1月12日、藤田徹文先生をお招きして恒例の新春法座が開催されました。本年は、親鸞聖人の90年のご生涯を振り返りながら、人生の節目節目に聖人が見られた夢についてお話を頂きました。

【講演主旨】

文献に残されている親鸞聖人の夢・・・19歳、29歳、59歳、85歳の時に見られた夢・・・はすべて「実夢」です。

「実夢」とは意識の最も深い部分、すなわち第八阿頼耶識から出てくるものであり、多くは尊敬する方の「夢告」の形をとります。人生の節目に見られた夢は「実夢」であるからこそ、親鸞聖人の生き方そのものを決定づけ、親鸞聖人の新しく生きる方向の決断に踏み切らせるものとなったのです。

趣味の広場



俳句を楽しむ(七十)

森本隆を

平成二十八年、わたしども周辺の周辺は穏やかに新しい年を迎えました。「光明寺だより」九十一号」が皆さんのお手元に届くのは二月。もう正月気分もすっかり抜け、周囲の自然を注意深く見るとそこに春の兆しを見つけられる頃です。私宅での月一度の句会(現在八名)も先日の一月中旬で二十三年めに入りました。俳句を始めると人間の五感を働かせ自然に親しみ、よく考えよく歩くので、会員諸氏も至って心身健やかに俳句を楽しんでいます。さて今回は、俳句に親しむということは、最近よく言われるスローライフを實踐していることの証しあかのような句をいくつかご紹介いたします。引用句は全て、私の所属する俳句結社(京都)の副主宰で、四月からは新しく主宰に就任するS氏の句です。

早春の紅茶にミルク溶けゆけり
座布団の厚さニセンチほどの春

この二句は、日常生活の中でふとした瞬間は何気なく目のいつているところに春の到来を感じ取り、そのまま句に詠んだ素直な句ですね。勿論この二句の前提には気温とか日の光、風

のようすなどいろいろ感じて、その上に成り立っているのです。

まんさくや比叡を仰ぐ山の村

お日様を肩車して春野かな

耕せば土笑ふとも歌ふとも

これらの句はやはり大自然の中にいて、例えば「まんさく」の花や、太陽のあたたかさ、そして日の当る土といったものに春を見つけて、その喜びを句にしたものです。長い冬の寒さ、暗さに耐えて日を過ごす中で、ふと春を見つけた時の喜びは、日本人なら誰しも理解できますね。

文鎮は鯉なすの形春の月

風つかみそねてばかり雪柳

湯上りの爪やはらかきおぼろかな

この三句はただ春の風景や物を題材にしてそのものを詠んだ句、というよりは、それらを使って作者自身の心の中にある、春のふんいきというか、春の気分を詠んでいます。それだけ俳句としては深みのある句になっています。難しい言葉や、専門家のような特殊な用語などひとつも使わず、それでいて作品としてはかなり格調高い句です。

たんぼぼの咲いても干すだけの庭

一息でははらぬあくび春の昼

喜寿を過ぎ師はなほ若し梅の花

「たんぼぼ」、「あくび」、「梅」といった春を詠むのに代表のように取り上げられる句材を使って、しかも作者にしか作れない個性豊かな句ですね。やはり感受性が豊か、という才能の一つを駆使した作品で、どこからか作

者の「あー、あー」と大げさな程のあくびの音が聞こえてくるようです。

俳句の世界での季節は旧暦のままですから、現代の暦でいう季節感と少しねじれています。しかし、季節の目安としては今も立春、立夏、立秋、立冬という、太陽の運行を基にした二十四季節が基準となり、大きな無理や矛盾はありません。二月ではまだ風は冷たい。でも木の芽や草の色に春の訪れを実感出来ます。自然の力の大きさ、季節の移り変わりの絶妙さ、そして自分の日々の無事に感謝しつつ、句のものを食べ、古人より引き継いだ工夫で寒や暑をしのぎ、心身の健康と環境にやさしいスローライフを實踐しましょう。

今年もよろしく願っています。



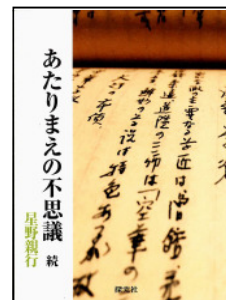
住職書作品



本文—無一物中無盡蔵
むいちもつちゅうむじんそぞう

BOOK 本

『あたりまえの不思議 続』



発行所 探究社
著者 星野親行
定価 2000円+税

前作『あたりまえの不思議』から十年。日々の法務において縁ある人々はじめとして、今は亡き梯實圓、桐谷順忍、山本仏骨といった本願寺を代表する各和上さんの法話やお言葉が紹介されています。本書は寺報の発行順に52の法話が掲載されています。一話完結ですからどこからでも読むことが出来ます。お念仏の深い味わいが滲み出た好著です。今回の一口法話で紹介した梯實圓和上のご法話は本書より引用しております。

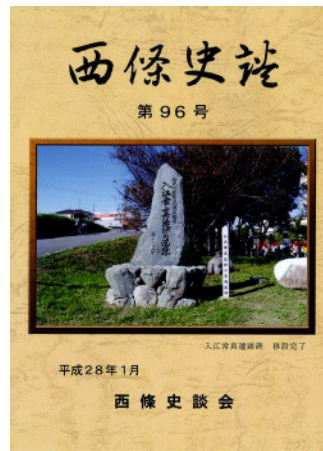
著者は大阪豊中市にある西法寺のご住職で、先代住職（故人）共々、行信教校で学ばれ、現在、当校の講師もされています。

おねはん

3月15日(火)

- 1回目 9時～10時
- 2回目 11時～12時
- 3回目 13時～14時

★該当者にはご案内を差し上げています



【寄贈】『西条史談』1月号



言葉のプレゼント

白は白 黄は黄のままに
野の小菊
いずれ劣らぬ尊さを咲く



次回発行予定…7月下旬

「光明寺だより」をご家族の皆さんで
お読みください

光明寺のホームページ

南岳山光明寺

検索



★1月12日(火)午後4時より藤田徹文先生をお招きして「新春法座」が開催されました。25名の参拝者がありました。住職第2子・美乃莉(みーちゃん)のお披露目もいたしました。
(*関連記事5ページ)

★12月2日、天岸浄圓先生(大阪・西光寺住職)をお招きして報恩講が営まれました。25名の参拝者がありました。
(*関連記事5ページ)

★『西条史談』1月号を安永省一さんよりご寄贈頂きました。無事移設を終えた「常真法師顕彰碑」が表紙を飾っています。移設の経緯等が詳しく掲載されています。
(*上段写真参照)

★住職第2子・美乃莉(みーちゃん)は現在4か月目に入りました。首も座り、表情も豊かになってきました。

